



VOICE

読者のページ

2025年11月号(53巻11号)へ寄せられた
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

特集

一般検査におけるギムザ染色標本の 細胞鑑別ポイント

- 院内では尿検体のギムザ染色は未実施ですが、染色原理からていねいに振り返る記事が勉強になりました。定性と沈渣の結果の乖離から精査してリンパ腫と診断された症例を読み、ルーチンでも同様の乖離をスルーしない注意力が必要だと感じました。 **MK (北海道)**
- ギムザ染色標本の見極めについて、非常に実践的な内容でした。さまざまな血液疾患や細胞の微細な形態変化を判別するためのチェックポイントが、図を交えて詳しく解説されていて、日々の検査業務における鑑別能の向上に直結すると感じました。 **KM (東京都)**
- 髄液のギムザ染色像がきれいで感動しました。診断に耐えうる標本作製を心がけたいです。 **ctMT (京都府)**

MT Seminar

できていますか？ 臨床検査技師の「確・連・報」

- 誰かに言われてから動くのではなく、自分から仕事を見つけて動けるような臨床検査技師が増えると良いと思います。 **のぶゆき (山口県)**
- 「確認・連絡・報告」、気をつけているつもりですが、特に確認不足がインシデントのきっかけになると感じています。本記事で再確認しました。 **HY (福岡県)**
- ホウレンソウはよく言われますが、カクレンボウは初耳でした。新人育成は、経験させる必要があれば見守り、道を作る必要があれば親身になる局面もあります。無関心になりすぎず、新人や後輩が1人でも動けるように導く方法を見つけたいです。 **SI (長崎県)**

基礎講座

小型の尿路上皮細胞、尿細管上皮細胞、 白血球の鑑別ポイント

- 普段から見慣れていないと、特に小型の細胞は判断に困ることがあります。いろいろなパターンの細胞写真の一覧を今後の参考にします。 **MK (千葉県)**
- わかりやすい画像に感心しました。違いが見てわかる誌面構成は、比較した時にどちらに近いだろうと考えることができて良かったです。 **SH (愛媛県)**
- ルーチン業務でも非常に悩む細胞でした。細胞全体の印象だけにとらわれず、顆粒の有無や塩類が付着しているかなど、各細胞の特徴に着目して鑑別していくことが必要だと学びました。 **MK (北海道)**

話題—NEWS&TOPICS

日本人のための尿ナトカリ比の 目標値を設定

- ナトリウム摂取量が多く、高血圧に起因する脳血管疾患の有病率が高い日本では、高血圧の予防は医療的課題です。外来の随時尿で測定でき、患者にその場で結果を見せられて医療上の重要性も高い尿ナトカリ比の目標値が設定・公表されたのは素晴らしいことで、現場に普及すると良いと思います。 **蟹座の星 (東京都)**
- ルーチン的に尿ナトカリ比を評価しているので、とても参考になりました。 **HY (福岡県)**
- 健診業務に携わっています。尿ナトカリ比を健診項目として提案したいと感じました。 **MT (青森県)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはWebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

